

まつもと 公民館報

発行
2015
1/30

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 17

= 松本市重要無形民俗文化財 = 梓川地区花見の御柱



元日の朝の 御柱立て

1月1日(木)の朝
まだ暗いうちに、小
学生が町内の3カ所
にある道祖神にお参
りし、「御柱立てにき
ておくれや」と頼ん
で歩きます。

町内公民館に集まっ
た小学生・PTA・育成
会・町会のみんなで協
力し合ってオンベに飾
り付けます。

日の出の前にみん
なで協力し合い御柱
を立てます。日の出
の方向に向けて角度
を調整し終わると、
曇っていた空がそこ
だけ開いて、初日の
出を拝むことができ
ました。

今年もよい年にな
りますように……!



会場内では各地区のポスター展示も

当日は35地区の活動状況がパネルで展示されるなか、3地区からの事例発表やパネルディスカッションが催されました。

まず地域づくりの活動事例として、島立大庭町会の「かぶらの会」、入山辺地区の「こんな山辺にするじゃん会」、四賀地区社協の「ささえあい事業」の3つの発表がありました。

キーワードは仲間づくり

12月13日(土)「平成26年度松本市地域づくり市民活動研究集会」が、「字び・氣つきから始める地域づくり」をテーマに浅間温泉文化センターで開催され、関係者約300人が参加しました。

地域づくりは「仲間づくり」

―松本市地域づくり市民活動研究集会から―

「かぶらの会」は身近な町会レベルのサロンの活動、「こんな山辺にするじゃん会」は団体の縦割りを越えた地区有志による活動、「ささえあい事業」は社協を中心とする活動と、規模や形は異なりますが、高齢化社会への対応という共通点があり、いずれの事例からも課題解決に向けた「仲間づくり」がキーワードであると分かりました。

活動の成果として、「若者や子どもたちと一緒に作業することで、地域活性化に向けた人の輪ができた」「生きがいや楽しみができて、張りのある生活が送れる」「困り事へのあきらめの気持ちから、人に頼れる素直な気持ちへと変わった」などの言葉が聞かれ、あらためて人のつながりの大切さを感じる発表でした。

住民主体の地域づくりへ

武者忠彦さん(信州大学准

館報まつもと「奨励賞」受賞 第5回全国公民館報コンクール



全国公民館連合会が主催する「第5回全国公民館報コンクール」において、松本市の館報全市版と第一地区版「Mウイング」が奨励賞を受賞しました。

同コンクールは、公民館の広報活動向上のために、全国の優れた公民館報を表彰するもので、平成18年から2年に一度開催されています。

第5回目となる今回は、全国から159件の応募があり、最優秀賞から奨励賞まで22の公民館報が選ばれました。

ちなみに松本市の公民館報では過去、「梓川公民館報」(第2回優良賞)と「館報はた」(第4回奨励賞)が入選を果たしています。

編集委員会では、今回の受賞を機に、より一層紙面の充実を図っていきます。

教授)をコーディネーターとするパネルディスカッションでは、3人のパネリストのほか助言者として菅谷市長も登壇しました。

問題の解決という目的を共有する集団が、地域づくりにおける「仲間」であり、さまざまな立場の住民とともに仲間づくりを進めていくことが、住民主体の地域づくりにつながっていくとのことでした。

またそうした仲間づくりを継続するためには、まとめ役となるリーダーが必要とのお話もありました。

参加者からは「自分の地区

の参考になった」「活動の工夫がよくわかった」などの感想を聞くことができました。

今後の成果を期待して

地域づくりとは、安心していきいきと暮らせる住みよい社会をつくるため、住民が主体となって地域課題を解決していく活動や取り組みです。

今年度から市内35地区に地域づくりセンターが開設され、各地区で特色のある地域づくりが行われていきます。

ここ数年でさらに高齢化が進み、若年層が減少していくことが予想されています。

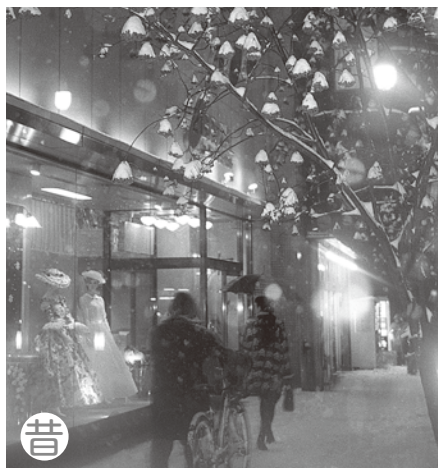
地域づくりは仲間づくり、今後活動の輪がますます広がり、着実に実を結んでいくことを期待します。



地域づくりをテーマにディスカッション

写真でつづる まつもとの今昔②⑩

～雪の大名町～



(1998.1.28 写真提供: 日本報道写真連盟)
武富士松本ビルに入っていたツーワンプライダルの花嫁衣装と、奥は鶴林堂書店の灯りが見える。ナナカマドの赤い実と白い雪のコントラストが美しい。



(2015.1.2 撮影)
建物が取り壊されて更地になり、発掘調査で大手門の石垣跡が確認され、ミニ公園として整備されつつある。

第30回松本市公民館研究集会

地域をつなぎ「暮らし」を創る ～公民館の可能性～

主催 松本市教育委員会／主管 松本市公民館研究集会実行委員会

- と き: 2015年2月15日(日) 9:30～16:30 (受付9:00～)
- と ころ: 松本市中央公民館(Mウイング)6階ホールほか

◆〈開会式・感謝状贈呈式〉9:30～10:00

◆第1部〈基調講演〉10:10～11:40

「3・11以後の公民館の使命」

NPO法人教育支援協会代表理事 吉田 博彦氏

◆第2部〈分科会〉13:00～16:30

- ①町会・町内公民館／②人権／③自然・環境／④子ども・子育て／
- ⑤地域と学校／⑥地域福祉／⑦防災／⑧地域文化／⑨若者と地域／⑩公民館委員会／⑪文科省委託事業(※特別分科会)

【参加申込方法】

2月9日(月)までに、氏名・住所・電話番号・参加を希望する分科会番号を最寄りの地区公民館、または下記集会事務局(中央公民館)までお申込みください。また昼食(お弁当600円)、託児保育(無料)、手話・要約筆記通訳が必要な方はその旨お伝えください。参加無料。どなたでも参加いただけます。(当日参加も可能です)



松本市教育委員会 生涯学習課・中央公民館(集会事務局)

〒390-0811 松本市中央1-18-1 Mウイング2階

TEL 0263-32-1132/FAX 0263-37-1153

E-mail gakushu@city.matsumoto.nagano.jp

おこひる

最近、温泉に通っている。源泉かけ流し。一見普通の民家のような造りで、温泉とはわからない▼湯船に落ちるお湯の他には水道の蛇口が一つあるだけだ。レトロなピンクのタイルの床の上に直接座って、湯船からお湯を汲んでかぶる。温度調整なんてしていない自然のお湯のまま。日によって温度も違う▼けれど温泉パウワはすばらしい。夏は熱いがさっぱりするし、冬は体の芯まで温かくなる。本当に湯冷めしない。長年通っているおばあちゃんたちの肌は、つるつるのピカッピカだ。軽い打ち身はすぐ治るし、私もボコボコしていた足の爪がきれいになってきた▼設備のなさを嫌がっていた高校生の娘も70代の母もいまはほとんど毎日通っている。お湯の良さはもとより、家のお風呂よりもゆったりと入れるし毎日ガリゾート気分、最高の贅沢だ。いまや温泉は親子三代、日々欠かせないものになっている▼冬、道路わきの溝から湯気が立ち上るのを見ると自然の不思議を思い、感謝の気持ちが湧き上がってくる。

地域探訪

歩まっつ松本!

21

安原地区ウォーキングコース

安原地区は南北に長く公民館を基点に、北のAコースは信州大学をはじめ多くの教育機関が集まっています。南のBコースは旧城下町の歴史と文化が残る町並みです。

今回は公民館の前信号を東ノ丁へと南に進む史跡巡りのBコースをご紹介します。

一步入ると道幅は狭く静かな住宅街です。その一角に古くは水野家に仕え、後に戸田家に仕えた武士と伝えられている県宝橋倉家があります。下級武士の松本藩武家住宅を知る貴重な遺構です。敷地内にある真つ赤な南天の実が白壁に映えていました。

さらに先に進むと、普通選挙運動の先駆者木下尚江、鳩山一郎総理大臣の母親である鳩山春子の生誕地があります。現在尚江の生家は歴史の里に移築・保存されており跡地には杏の切り株が残っています。「杏の木は俺の生まれの頃からあったから80年は経っているなあ」と近くの人が話してくださいました。

松本城総堀近くの袋町まで



江戸時代の絵図（真ん中に鉤の手）

来ると城下に残る唯一の鉤の手（道がクランク状に折れ曲がっているところ）があります。敵の攻撃から守るための工夫です。天保六年頃の絵図を見て浅間線沿いに出ます。

この辺りは松平氏の頃に武家地を増設した際の新しい町ということで、新町と名付けられたといわれています。商売繁盛・家内安全に御利益がある福徳稲荷に一礼し、江戸時代、町家として栄えた安原町を通り天白町へ入ります。

天白神社は松本城を築いた石川数正により、城の鬼門方角に鎮守の宮として四百年前に建てられたといわれ、拝殿前には「大天白両社」の古い額があります。

普段は通らない路地裏で貴重な城下の史跡、面影に触れた約2キロの史跡巡りでした。

地産地消のかんたんレシピ

ワンタンの皮が大変身
『菜の花ピザ』

春の香りとマスタードの香ばしさが命!!

材料：ワンタンの皮、マスタード、
菜の花、ピザ用チーズ

1. 菜の花を湯がいて、みじん切りにする
2. ワンタンの皮にマスタードをぬり、菜の花をならべる
3. チーズをのせて、オーブンで焦げ目がつくまで焼く



わがまち自慢 第4回

第二地区讃歌〜公民館活動と共に〜

第二地区公民館は「地区住民が集える施設がほしい」という願いが形になった建物です。福祉ひろばも併設され、数多くのサークル活動が行われています。「第二地区讃歌（せせらぎによせて）」は公民館が主催した「歌で健康力アップ講座」から生まれ、地区住民から募集した歌詞を入れてほしい言葉や情景・思いを館報編集委員の深澤弘信氏がまとめて作詞、講座の講師の木次由美子先生に作曲していただきました。

思いのこもったこの歌は集まりや文化祭等々いろいろな場面でも歌われています。8月の盆踊り大会でもこの曲に振りをつけて踊ります。文化祭



文化祭でのコラボレーション